

パリ協定実現のカギを握るのは、  
企業や自治体といったプレイヤーたちの  
率先行動と、それを支える脱炭素技術である。

第8回

(株)NHKエンタープライズ(後編)

(株)NHKエンタープライズ 制作本部情報文化番組 エグゼクティブ・プロデューサー 堅達 京子氏

聞き手 WWFジャパン 気候変動・エネルギープロジェクトリーダー 小西 雅子

## 挑戦する企業を主役にした報道を 解決策を示せる番組づくりをめざして

気候変動を取り巻く社会と、変化するビジネスの様を描いたNHKスペシャル「激変する世界ビジネス“脱炭素革命”の衝撃」。番組への反響は大きく、関心が高い企業のみならず、事の重要性に気づいていなかった中小企業や経営層の多くにも情報が伝わっている可能性が高い。番組に関与した企業の様子などを通じて、これからの脱炭素社会を考えてみたい。

### 脱炭素へのパラダイムシフト となった三つの要素

**小西** 国内の脱炭素へのパラダイムシフトは、2017年の三つの出来事が大きかったと思っています。一つ目は、環境省がScience Based Targets (SBT—企業版2°C目標)の策定およびサプライチェーン排出量の算定を行う支援事業を始めたこと。二つ目は、年金積立金管理運用独立行政法人によるESG投資。三つ目は、メディアの変化で、ビジネスへの影響が大きい日本経済新聞が、石炭火力の問題に注力し始めたこと。そしてNHKスペシャル「激変する世界ビジネス“脱炭素革命”の衝撃」の放送です。特に番組を通じて、密着された企業の皆さんの思いが伝わってきました。

**堅達** COP23の現場でずっと行動を共にしました。番組では、日本の企業団が、気候変動に関する研究・提言をする民間団体「クライメート・リーダーシップ・カウンスル」



㊦小西氏、㊦堅達氏

やイギリスの保険会社、アビバ傘下の資産運用会社「アビバ・インベスターズ」の責任者から、厳しいコメントを受けますが、他にも、多くの方から同様の指摘を受けました。

日本への批判は分かっているつもりでしたが、面と向かって強い調子で述べられると、世界との温度差をはっきり思い知らされました。企業団の皆さんが感じているであろうことも強く伝わってきました。

**小西** 各社のコメントに重みがありました。  
**堅達** 「脱炭素化しないと事業ができない、それが間近まできている」(㈱LIXIL)「後進国だと言われているようなもの。ぐうの音も出ない」(積水ハウス㈱)などと言われていましたね。取引先を訪問した(株)リコーさんは、「世界からはじき出されるという危機感を痛切に感じた」とも。

各社の言葉は、ビジネスの世界にいる人たちに直球で届いたのだと思います。気候変動は、ビジネス全体、つまりバリューチェーンの問題で、取り組みを大きく変革

させなければ、取り残されるのだという現実直面していることが。ビジネスを主体として番組を構成したことで、“自分事”として捉えていただけたのだと思います。

また、イギリスの非営利シンクタンク「カーボントラッカー」の発表後、戸田建設(株)さんの悔しそうな表情も印象的でした。映像メディアならではのだと思えます。

## 基本情報を伝えていくこと

**小西** 見せ方にも工夫が見られました。気温上昇をあるレベルまでに抑えようとする、温室効果ガスの累積排出量は上限が決まってくるという「カーボンバジェット」の説明などは、とても分かりやすかったです。

**堅達** カーボンバジェット(炭素予算)の意味が理解できれば、現在、化石燃料会社の資産として計上されている埋蔵資源が、使えない「座礁資産」になるという意味が分かります。これまでも色々工夫してきたつもりでしたが、今回、思いがけず、この解説に大きな反響をいただき、逆に「基本情報が伝えられていなかった」と反省しました。

**小西** エネルギー部門の脱炭素化が必須となる中、石炭火力発電所は新規建設の中止や既存発電所の廃止が求められます。国内の大手金融機関が、投資に関する方針を示すようになったり、WWFジャパン主催の1.5°C特別報告書の説明会に、企業からのお申込が殺到し、数日で定員150人が満席になるなど、パリ協定以後のビジネスの変化は、国内にも起こっていると思います。堅達さんも放送以後、企業の動きに何か変化を感じておられますか。

**堅達** 石炭火力発電と再生可能エネルギーの両部門を持たれる丸紅(株)さんは、取材当時、両部門のバランスをとっておられました。それから約半年後、石炭火力発電所の新規開発からの撤退、保有発電所の権益を2030年までに半減させることなどを公表し、話



カーボンバジェットと座礁資産を解説

題となったのは周知の通りです。

これまで取材でお世話になった企業担当者からは、番組を見たという多くの声をいただきました。大阪の中小企業の団体からNHKに「番組制作者に講演に来てもらいたい」と問い合わせをいただくこともありました。大手企業の背中を押し、中小企業には知られざる情報提供を、いずれも番組がきっかけになれたのは、うれしいことでした。

**小西** これからはどんな番組づくりをされますか。

**堅達** 第2弾の制作をめざして、現在、企画を準備しています。吹き始めた風に、さらに追い風を吹かせられるようにしたい。変革のスピードが勝負ですから。やはり、挑戦する企業を主役に報道していきたいですね。そして、脱炭素化に舵を切り始めた企業が感じている壁と、それをどうやったらソリューションにつなげられるかなど、解決策を同時に示せる番組づくりをめざしたいと思います。

収録日：2018年11月19日

### 取材後記

パリ協定の実施に関する詳細ルールがCOP24で成立しました。巨大なビジネスチャンスが広がると同時に、脱炭素化に沿わないビジネスには一大リスクです。その中で、日本の企業が受けたパリ協定の洗礼をありのままに描いたこの番組は、等身大で日本企業の心に響いたと思います。まさに「社会を変えた番組」と後世に残るでしょう！ (小西 雅子)

(前編は2019年1月号8、9頁に掲載)